

SHANTI



2024. 6
Vol. 319
シャンティ

巻末言

道



特集

絵本を
届ける運動
25周年

NGOの変わる力

シャンティ国際ボランティア会
理事 佐藤真美
一般社団法人 Earth Company 事務局長

私がNGOに関わるようになったのは、国際協力を専攻し、世界の不平等や格差の問題に関心を持っていた学生時代。差別や抑圧を受けていた人々が自ら立ち上がり闘ったことで、世界中で社会変革が成し遂げられたことを学びました。目指すべき、より公正な社会像と、それを実現する「草の根ムーブメント」の力に強く惹かれ、自分もそのプロセスに関わってみたいという思いから、卒業してすぐにNGOの世界に飛び込みました。

その後、複数のNGOの活動に携わってきましたが、活動分野や地域に関わらず共通していたのは、現場で人やコミュニティ、ひいては社会が「変わる」ことをサポートする役割でした。そして、この役割を果たすことこそ、私もやりがいを感じて取り組んできたところでした。

一方ここ10年ほどの間に、NGOをめぐる国内外の環境は明らかに大きく変わりました。気候変動、感染症、複雑化する国際情勢やテクノロジーの急速な進化。私たちは今、VUCA時代という複雑で目まぐるしく変転する予測困難な時代に生きていると言われていています。草の根で活動するNGOとしては、現場に関わる一人ひとりと寄り添う姿勢を大切にしつつ、かつてないレベルでの



カンボジア駐在時代の保健衛生事業の同僚 (2009年撮影)

環境の変化に対して、俯瞰力を持って目の前の活動を検証しアップデートする必要性が高まっています。社会変革を促すNGO自身が変わらなければならない、そういう時期だと思っています。

私自身、国際協力活動の現場からNGOのマネジメントに軸足を移したことで、変化に対応し変革を生み出す事業や組織はどのようにつくれるのか、ということに関心を持つようになりました。シャンティのように国際協力分野で長年積み上げてきた実績を持つ団体が、軸となる理念や価値観を大切にしつつ、組織としてどう変化できるのか。NGOの在り方、ひいてはNGOに関わる私たち一人ひとりの姿勢を改めて見直すことが強く求められている中で、新しいチャレンジと一緒に取り組んでいきたいと思っています。



SHANTI vol.319 CONTENTS

難民キャンプの図書館での読み聞かせ風景
(2023年撮影) ©川畑 嘉文

絵本クレジット:『おおきなかぶ』福音館書店、『風の星』福音館書店、『いっすんぼうし』福音館書店、『木』福音館書店、『フロレンス・ナイチンゲール』光村教育図書、『オットー 戦火をくぐったティディバ』評論社

- 4 特集
絵本を届ける運動25周年
- 16 世界の絵本を読んでみよう
「魚の群れ」
ミャンマー（ビルマ）難民キャンプ2008年
- 18 世界の麺 アフガニスタンの麺「アッシュ・ボレダ」
- 19 世界の現場からAIRMAIL
▶ラオス事務所 ▶ネパール事務所
▶ミャンマー事務所
- 26 開催報告 講演会
アフガニスタン「奪われる女性の権利と子どもの未来
～NGOの苦悩と模索の20年～」

- 28 つくり手さんのぬくもり
ラオス生産者団体
シビライ村
- 29 絵本に込められた想い
『おつきさま ひとつずつ』
- 30 ファインダーをのぞいて
「もらい笑い」
- 31 お知らせ
- 32 道 NGOの変わる力
一般社団法人Earth Company事務局長
佐藤真美

1999年に開始した「絵本を届ける運動」は25年目を迎えました。日本ではこれまでに30万人以上の方に参加いただきましたが、世代を超えた参加者が増えていると感じます。

子どものころに参加した方が家族を持ち、自身の子どもと一緒に参加するようになったり、学生のころに参加した方が就職先に紹介し、社員として参加したり、国際協力は関わり方が難しい、寄付以外の参加方法が分からないという声がある中、誰もが気軽に取り組むことができるからこそ、世代を問わず参加が広がっていると思います。これまでのあゆみと取り組みの全容、関わる皆さんの声をご紹介します。



今号の表紙
ミャンマー（ビルマ）難民キャンプの子どもたち(2023年撮影)
©川畑 嘉文

絵本クレジット:『おこる』金の星社、『ゆき』あすなる書房、『そうくんのさんぼ』福音館書店、『さととわに』ほるぷ出版、『この計画はひみつです』鈴木出版、『おたからパン』ひさかたチャイルド、『木』福音館書店



ベルマーク教育助成財団から助成開始

「絵本を届ける運動」の参加費をベルマーク教育助成財団に助成いただけるようになり、全国の学校で定着していきました。時には総合学習の時間の教材として、時には難民問題や南北格差を知る教材として、「絵本を届ける運動」は日本の教育現場でも広がりました。



「絵本を届ける運動」開始

参加者がより気軽に参加できるよう、絵本、翻訳シール、お名前シールをセットにして送る方式を採用し、名称も「絵本一冊運動」から「絵本を届ける運動」に変更しました。

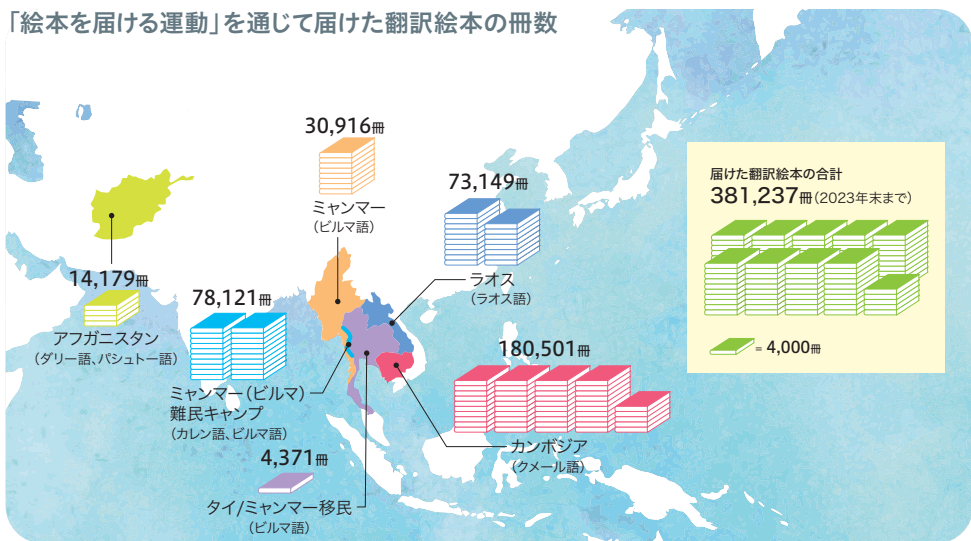
絵本クレジット：『ポリぶくる。1まい、すてた。』さ・え・ら書房、『この計画はひみつです』鈴木出版、『おとうさんのちず』あすなる書房、『さるとわに』ほるぷ出版、『ゆき』あすなる書房、『みずたまレンズ』福音館書店



特集 絵本を届ける運動 25周年

2000年 1999年

「絵本を届ける運動」を通じて届けた翻訳絵本の冊数



1981年

はじまり

シャンティは1981年、タイに逃れたカンボジア難民が暮らす難民キャンプで、彼らが人間としての尊厳を取り戻し、未来への希望を持って生きていくために、教育と文化を軸にした図書館活動を開始しました。

しかし、難民キャンプで出会ったのは、絵本はもちろん、母語すら目にしたことがない子どもたちでした。シャンティが移動図書館活動で絵本の読み聞かせを行い、常設図書館を開館したところ、生まれてはじめての絵本に戸惑っていた子どもたちも、だんだんと目を輝かせて夢中で本を開くようになりました。

次なる課題は、図書館活動に必要な絵本の調達でした。当時のカンボジアはポル・ポト政権時代の焚書政策により、カンボジア語の大半の図書が焼失し、国内で出版されている絵本もわずかに。そこで、日本語の絵本にカンボジア語の翻訳文を貼り、その翻訳絵本をカンボジア事務所に送り、学校や図書館に届ける「絵本一冊運動」が始まったのです。



カオイダン難民キャンプにあった常設図書館(1981年)

STEP 2 申し込み・絵本 セットの発送

翻訳絵本が活動地に届くまで



申し込みサイト

参加者は必要情報を記入の上、参加費を支払い、申し込みます。毎年の申し込み受付冊数は、活動地の事業計画に沿って上限冊数を決めています。

文部科学省、公益社団法人日本図書館協会、公益社団法人読書推進運動協議会から後援を得ているため、全国の図書館にパンフレットを送り、参加を呼びかけています。

お申し込み後は、絵本と「翻訳シール」のほか、「あいうえお表」など必要なものがまとまったセットがお手元に届きます。

絵本セットは、おとなから子どもまでアジアの言葉と暮らしが楽しく学べる「参加のしおり」を含んでいます。「参加のしおり」は絵本を届ける先の言葉と暮らしを学ぶことができます。



絵本セットは東京事務所から送ります

STEP 1 絵本の選書

翻訳絵本が活動地に届くまで



選書会では実際に絵本を読んで検討することも

海外事務所から1年に1回、活動地の子どもたちが必要としている絵本のテーマのリクエストが届きます。たとえばスポーツ、天気、科学、体など子どもたちの知識を深めるテーマから、平和、友情、倫理など心を育てるテーマなどです。リクエストを受け、東京事務所では児童書専門の書店をめぐり、司書など専門家からの助言を受けながら絵本をリストアップします。

リクエストに沿っているかだけではなく、翻訳シールを貼るスペースの有無、そもそも現地語に翻訳できる内容か、擬音語や擬態語、日本語独特の言い回しが多用されていないか、ページ数が適切かなどを考慮して選書します。

また、絵本の出版社から著作権許諾を受ける手続きも重要です。出版された絵本にシールを貼る行為は著作権の二次的使用とされ、著作者または著作権者の許諾が必要です。



グラフィックデザイナー
保田卓也さん

「絵本を届ける運動」に申し込むと届く、必要なものがまとまった絵本セットを刷新しました。これまでもお届けしていた「翻訳シール」「あいうえお表」「翻訳絵本の作り方」は内容を刷新し、「参加のしおり」を新たに追加しました。

「参加のしおり」は、絵本を届ける先の言葉と暮らしを知ることができる冊子です。世界や国際協力を身近に感じられたり、異文化に親しみきっかけとなることを目指しています。



絵本セット（『わたしのワンピース』こぐま社）



公共図書館 児童サービス担当
高井陽さん

厳しい環境下で絵本を手にして喜びにあふれるその表情に、絵本が持つ力が見えました。

自分がそのスタート部分のお手伝いをさせていただいているということを認識した時に、役割の重さを感じました。なによりも、図書館員として「本を求める人に届けたい」と思っています。オノマトベは国によってニュアンスが違い、翻訳する時の表現が難しいと聞きました。幼児向けの絵本にはかなりの確率でオノマトベが登場するので、選書の難しさを感じています。



選書会の様子

STEP4 東京事務所で 絵本をチェック

翻訳絵本が活動地に届くまで



絵本ボランティアによる最終チェック

翻訳シールを貼り終えて、東京事務所に返送いただいた絵本は、絵本ボランティアと呼ばれる皆さんの目で1冊ずつ点検をします。絵本ボランティアは「絵本を届ける運動」の縁の下の力持ちであり、最後の砦。その役割から「シャントイ」と呼ばれるから「絵本ドクター」と呼ばれています。

たとえば、文字が逆さに貼っている、枠線が残っている、翻訳シールが貼られていない、といったつまづきを、絵本チェックルールにのっとりながら確認し、1冊ずつ丁寧に修正します。絵本ボランティアの細やかな修正があるからこそ、活動地の子どもたちはストレスなく絵本を楽しむことができます。

絵本ボランティアは子育てが落ち着いた方、絵本を触っているのが好きという方など、参加のきっかけはさまざまです。

絵本ドクターのみなさん



大学生 鈴木小春さん

最初はインターンとして関わり、今は週に1回ボランティアとして絵本の発送準備、返送された絵本のチェックと修正、翻訳シール作成のサポートを行っています。授業で「自分たちに何ができるか」を話し合っても「大学生ができることは知ることだ」という結論になることが多かったのですが、国際協力に関心のある人がたくさんいて、大学生という立場でもできることがあるのだと気づきました。写真の絵本『かなしみがやってきたらきみは』ほるぶ出版



ボランティア
杉岡弘精さん、桂子さんご夫妻

11年ほど前にテレビ番組で「絵本を届ける運動」を知りました。子どもが幼いころ、寝かしつけに絵本をせがまれたことを思い出し、画期的で素晴らしい支援だと感じました。以来、作成した絵本は47冊になります。現在、私は月1回、妻は3～4回程度、絵本の発送準備や貼られた翻訳シールの確認作業などのボランティアをしています。現地の子どもたちが少しでも多くの素敵なお話に出会い、夢を感じてくれることを願っています。

写真の絵本『こねこが』めくるむ、『もうちよっともうちよっと』福音館書店

STEP3 翻訳絵本を つくる

翻訳絵本が活動地に届くまで



日本語の上に翻訳シールを貼ります
（『わたしのワンピース』こぐま社）

シールを貼り始める前に絵本を読みます。次に「参加のしおり」で翻訳絵本が届く場所の言葉と暮らしについて学びます。その後、翻訳シールと絵本を見比べて貼る位置が正しいことを確認したら、1枚ずつ翻訳シールを切りとり、日本語が隠れるようにシールを貼ります。この時、黒い枠線の2mmほど内側を切るのがポイントです。

また、現地語は多くの人に読めない言語なので、シールの上下に気をつけながら貼ります。すべてのシールを貼り終えたら、裏表紙の内側に貼ってある「お名前シール」に、「あいうえお表」を見ながら現地語で参加者ご自身の名前を書きます。見慣れない言葉で自分の名前を書くことは新鮮な経験で、参加者から好評を得ています。こうして完成した翻訳絵本を、全国各地から東京事務所に返送していただきます。

翻訳絵本づくりに参加していただきました

CSR活動の一環として、2020年から「絵本を届ける運動」に参加しています。年に1度開催している翻訳絵本づくりワークショップは、社員が参加しやすいようにランチタイムと就業時間後の2回に分けて行っています。翻訳絵本をつくりながら、幼少期に出会った絵本のことや、子どもに読み聞かせをしている絵本のことなどが話題になっています。ワークショップを通して他部門の社員同士が交流を深めることにもつながっています。



株式会社マクロミル

横浜市立箕輪小学校では地域内の企業から助成をいただき、小学6年生の生徒たちが毎年翻訳絵本づくりに取り組んでいます。シャントイの職員にワークショップ講師をお願いし、お話を聞いた後に絵本づくりを行います。完成すると「できた!」と言って生徒たちがつくった絵本を見せてくれます。「絵本を届ける運動」に参加することで、生徒たちがアジアの同年代の子どもたちのことを知る機会につながります。



横浜市立箕輪小学校
主幹教諭 堀越 俊さん

STEP 6 海外の事務所に到着

翻訳絵本が活動地に届くまで



海外の事務所に到着

日本を出発した翻訳絵本は、活動国の港からシヤンティの海外事務所へ春ごろ到着します。届く先は、カンボジア、ラオス、ミャンマー、アフガニスタンです。届いた翻訳絵本は、現地職員が1冊ずつ確認し、活動対象の学校や図書館ごとに分けて梱包します。その後、各国の事業計画に沿って、研修会やモニタリングなどの実施とあわせて、それぞれの学校や図書館に責任を

持つて翻訳絵本を届けます。最後に、教員や司書が本の登録作業を行い、やっと翻訳絵本が子どもたちの元に届きます。一人でも多くの子どもに絵本に触れてもらうため、図書館などが読み聞かせを行います。へき地に住む子どもたちにも、車やバイクを使った移動図書館で翻訳絵本を届けています。時には、ボートを使ったり、ひたすら歩いたりして運ぶこともあります。



1



2



3



4

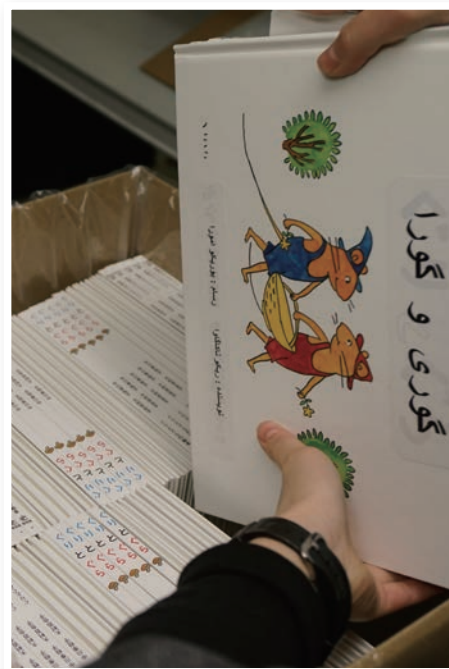


5

- 1 ミャンマー(ビルマ)難民事業事務所に到着
- 2 カンボジア事務所に到着
- 3 ミャンマー事務所に到着
- 4 ラオス事務所に到着
- 5 アフガニスタン事務所に到着
(「はらぺこあおむし」借成社)

STEP 5 絵本の旅立ちの日

翻訳絵本が活動地に届くまで



活動地ごとに箱詰めされる翻訳絵本
(『ぐりとぐら』福音館書店)

翻訳絵本のチェックが完了したら、いよいよ活動地へ送る準備です。東京事務所の地下倉庫に集められた翻訳絵本のタイトルを1冊ずつチェックしながら、届ける活動地ごとに箱詰め作業を行います。そして、倉庫からトラックへの段ボールの運び出しは、協賛企業などから参加してくれたボランティアと職員が総出で行います。

この日はまず「絵本を届ける運動」の実績報告を行った後、ラジオ体操で身体を温めながら、大きなダンボール300箱ほどを手渡しで、地下倉庫からトラックに積み込んでいきます。シヤンティでは「絵本リレー」と呼ばれており、年一度の風物詩です。このように文字通りたくさん人の手を借りながら、毎年2月に翻訳絵本を載せた船便が出發します。船便での輸送は、日本郵船株式会社にご協力いただいています。



重い段ボールを「絵本リレー」



みんなでラジオ体操



トラックに積み込んで「いってらっしゃい！」





2. 学びを届ける人

シブ・ホーウンさん
カンボジア シャンティ職員

教員への図書館研修を担当しています。初めての参加者が多いので、楽しんでもらえるよう念入りに準備します。研修で図書館の理念や歴史、利用法などを学んだ後、教員が積極的に、子どもたちを図書館に連れて行ったり、図書館で読み聞かせ・ゲーム・文化活動を行ったりする姿を見るととてもうれしいです。



3. 安心して学べる場所

ドー・イー・イー・トウエさん
ミャンマー 教員

2022年に学校図書館が開館するまでは、授業で使う本も読み聞かせの絵本もありませんでした。今では、子どもたちは夢中で読書にふけり、文章をスムーズに読めるようになりました。自由時間には読書のほか、お絵かきやエクササイズも楽しんでいます。教員にとっても、指導や学習のための知識を深める貴重な場です。



4. 学びと出会うための活動

ナウ・ダー・ムさん
ミャンマー (ビルマ) 難民キャンプ 教員

子どもたちが教育を受け、成長していく様子が見たくて教員になりました。子どもたちや保護者と関わるのが好きで、図書館で読み聞かせをする時間はとても幸せでわくわくします。これから、図書館と一緒に歌える歌や、リラックスして楽しむゲームなどを新しくつくってみたいと思っています。

学びが生まれ、 続く仕組みづくり



シャンティはこれまでの活動を通じて、紛争や貧困下でも、1冊の本から希望を見いだした子どもたちと出会ってきました。本を通じた学びが、生きる力を育み、やがて一人ひとりの未来を拓く力になると信じています。

目指すのは本に触れる文化づくりと、教育の質の向上です。そのためには「1・学ぶための本や教材」、「2・学びを届ける人」、「3・安心して学べる場所」、「4・学びと出会うための活動」が欠かせません。



1. 学ぶための本や教材

紛争が続く地域や少数民族が暮らす地域では、現地の言葉で書かれた本が不足しています。そこで、活動地の人々が読める本や教材を出版しています。

4人家族で、料理や皿洗い、掃除をするのが日課です。物語が好きなので、本は毎日読みます。週に1回図書館に行くのが楽しみです。絵のきれいな『かずをかぞえる』（玉川大学出版部）がお気に入りです。



ラオス
センシッドさん

本が大好きで週5日、図書館に通っています。政変で生活は苦しくなりましたが、図書館にいる時は幸せです。好きな絵本は『ジオジオのかんむり』（福音館書店）。人を助けることの大切さを教わりました。将来は学校の先生になりたいです。



アフガニスタン
サダフさん

活動への理解を深める

「絵本を届ける運動」を通して活動国の状況、シャンティの活動を知っていただくため、さまざまなツールを準備しています。ツールの制作に関わった皆さまの声とともにお届けします。

言葉と暮らしを学ぶ・
輪を広げる

絵本セットの中身には、2023年のリニューアルから「参加のしおり」を追加しました。この「参加のしおり」は、翻訳絵本のつくり方だけでなく、絵本を届ける先の言葉（クメール語、ラオス語、ビルマ語、カレン語、ダリー語、パシトゥー語）と、これらの言葉が話されている国・地域の暮らしについて知ることができ、内容を盛り込みました。翻訳絵本づくりの前に楽しんでいただくことを想定しています。



参加のしおり

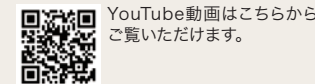


グラフィックデザイナー 保田卓也さん

絵本セットとして送る各種資料はこれまで同じサイズの紙だったところを、それぞれ高さを変えることで、一見して手順が分かりやすくなるように改善しました。言葉や文化が学べる「参加のしおり」の制作を通して、参加いただく方自身が学びを得ることも「絵本を届ける運動」の大切なポイントなのだと感じました。

絵本を手にした
子どもたちの動画を見る

シャンティのYouTubeではさまざまな動画を見ることが出来ます。事業紹介や対談、イベントのほか、活動地で撮影した動画も数多くあります。その中でも「本の力を、生きる力に。アジアの子どもたちに届けられた27万冊の本」は、ミャンマー（ビルマ）難民キャンプで撮影し、翻訳絵本を手にした子どもだけではなく、図書館員や母親といった子どもたちを取り巻く人々のストーリーも紹介しています。



YouTube動画はこちらからご覧いただけます。



映像作家 江藤孝治さん

シャンティの活動地で映像を撮るときはいつも、なるべく普段通りの様子をとらえられるよう、被写体に合わせて撮影を進めます。特設サイト用の動画は、どの活動地に行っても必ず目にする、子どもたちが絵本を読むときのときめきに満ちたまなざしや、絵本に触れた瞬間のみずみずしい表情を収めたいと思い撮影しました。

ウェブサイトで知る

「絵本を届ける運動」25周年を記念し、特設サイトを公開しました。特設サイトでは、「絵本を届ける運動」のこれまでのあゆみや活動の裏側、翻訳絵本を手にした子どもたちの声、届けてきた翻訳絵本の紹介などをまとめています。これまで届けた翻訳絵本の一部を一覧で見することもできます。25周年記念特設サイトを開くとまず目に入る動画は、ラオスの図書館の子どもたちです。



25周年記念特設サイト



株式会社QANDO 米山さん、三上さん、菅井さん(左から)

25周年という特別感を全体を通じて伝えたいと思いながら制作を進めました。本をめくるワクワクやドキドキを感じられるよう、サイト上に動きをつけたり、カラフルでにぎやかな色づかいを意識しました。届けた絵本の部分は、とにかく数が多いのでアップするのが大変でした。

ロゴに込めた思い

団体設立40周年を迎えた2021年、団体ロゴと共に「絵本を届ける運動」のロゴを新しく制作しました。新しいロゴマークは、たんぽぽの綿毛を象徴的にマーク化。数案あった中から、海外の活動地で使用することも念頭に、海外事務所を含む職員の投票により決定しました。



グラフィックデザイナー 三上悠里さん

本から芽が出るという団体ロゴ、そして種をマーク化した40周年記念ロゴに呼応する形で、絵本がもたらす芽吹く未来への可能性と、その元となる「種を届ける」=「絵本を届ける」というプロセスを表現しています。綿毛部分は開いた絵本を横から見た形をイメージしています。



親子で学ぶ

「絵本を届ける運動」の翻訳絵本づくりは、日本にいなから参加できる国際協力として、企業や団体、学校などにおいて、さまざまな形で取り組まれています。対面でのイベントやワークショップが開催できなくなったコロナ禍中、翻訳絵本を届ける先であるアジアに暮らす子どもたちの様子や、アジアの国々の文化や政治を学べる学習教材として動画とワークショップを制作しました。

「世界のこと、自分のことを知ろう」というテーマで、動画は2種類、ワークキットは学年別の4種類があり、シャンティ公式サイトからダウンロードが出来ます。中学生以上向けは、難民キャンプでの暮らしや、世界の教育状況について知り、平和について考える内容です。



シャンティ事務局



魚の群れ

1

昔、ある川の上のよどんだところに、たくさん魚たちがリーダーのもとで幸せに暮らしていました。

ある大雨の夕方、リーダーは魚の子どもたちに「食べ物を探しに行こう」と言いました。先頭を切って泳ぐリーダーの後ろを、子どもたちは列車のように続きま



した。元の場所に戻ると、リーダーは「私は少し休憩するから、お互いに愛し合い、平和に暮らすのだよ」と言いました。

2



そんなことは何も知らないソーウィーが、魚釣りにやって来ました。彼は、団結している魚の群れを見つけ、リーダーの声をしっかりと聞きました。釣竿をおろしても釣れないだろうと思ったソーウィーは、ほかの場所に移動しました。

3



ある日、喉が渴いたゾウがやって来て群れを見つけました。しかしゾウは「もう帰らなくちゃ。この魚の群れと同じようにしなければ」と言いながらそそくさと帰りました。リーダーは子どもたちに「ゾウを見たか？ゾウはみんなから学んだんだよ。団結していて、すばらしい信頼関係があったから」と言いました。

4



ある日カワウソがやって来て、注意深く魚を探し回りました。けれど、群れの団結ぶりに手出しができません。と思い、自分も魚の群れのようになろうと決めました。別の日には、雄牛が水を飲みに来た来ました。互いに尊敬し合う群れを見た雄牛は「一人でいては、ぼくにもいつか問題が起きる」と、急いで家へ帰りました。

5



ある夏、このよどんだ水はとても冷たくなりました。カエルがやって来て水の中をのぞき「とても団結しているな」と言つて家に帰っていきました。次の日、カワウソと雄牛とゾウとカエルは道で出会い、よどんだ水に向かいました。みんなは、強い信頼で結ばれた群れから学んだことを話し合い「自分の場所に戻っても魚の群れと同じように生きよう」と思いながらそれぞれの家へ帰りました。

6



魚の群れがいつものように食事から戻ると、リーダーは呼びかけました。「すばらしい信頼関係だ。だから、大勢の敵がみんなを探しに来たけれど、敵ではなくったのだよ。これからはよどんだ水の中で、共に平和に暮らしていこう」。

世界の現場から

AIRMAIL

To 日本の皆さん From 活動の現場

このページでは、アジアの各国で活動するシャンティの様子や職員を紹介します。



From Laos

ラオス事務所

コロナ禍で衛生環境への意識が高まる中、ラオス事務所は、学校内の衛生環境を整える事業を進めてきました。地域に事業が根付くことを願い、地域住民と手を携えた研修に力を注ぎました。

From Nepal

ネパール事務所

2023年から、若者や女性向けのスキル開発支援を始めました。図書館リソースセンターで、職業・技術スキルを学べます。これまでの図書館支援から一歩進んだ新しい取り組みに、職員も胸を躍らせています。



From Myanmar

ミャンマー事務所

初等教育のカリキュラム変更が完了し、学校設備の改善へのニーズは一段と高まっています。政変後、人々の暮らしは依然厳しく問題は山積みですが、子どもたちが学ぶ環境を守れるよう全力で支援を続けています。



写真の絵本：『みんなうち』福音館書店



世界の麺

シャンティの活動地にはユニークな麺料理がたくさんあります。お年寄りから子どもたちまで年齢や世代を問わず愛される麺料理を、シャンティの職員がご紹介します。



アフガニスタンの麺 [アッシュ・ボレダ]

アッシュ・ボレダ



アフガニスタン・カブール事務所
ラヒムさん

カブール事務所図書館プロジェクトマネジャーとして働いています。

ボレダ麺は、アフガニスタンの伝統的な料理です。アフガニスタンでは普段からスパゲティやマカロニをよく食べますが、ボレダ麺はラマダン期間中の夕食や冬の寒い時期に食べることが多いです。熱々ではなくほんのり温かい程度で食べるのがアフガニスタン流。味付けは好みや自然環境によって異なり、スパイシーだったり酸っぱかったり、時にはしょっぱいこともあります。豆と凝乳(牛乳を固めたもの)や、野菜と調理するのが一般的です。

豆と凝乳のボレダ麺のつくり方をご紹介します。まず小麦粉で生地をつくり、麺にします。みじん切りにした玉ねぎと凝乳を炒め、そこにトマトやニンニク、水を加えます。さらに、黄色のエンドウ豆など豆類とボレダ麺を加えて煮込みます。塩・コショウで味をととのえ、最後にドライミントを振ります。

自宅やオフィスで食べたり、市場で買ったりと、どんな場所でも食べられます。お店で食べる場合は、一杯100〜150AFS (200〜300円)ほどです。



Hot Topics

1 学校衛生改善事業が完了

対象校にて衛生施設を設置した後、教員や児童が学校で手洗い場やトイレにアクセスできるようになりました。研修後には、教員が積極的に手洗いや歯磨きを児童に促しており、事業で配布した衛生用具（歯ブラシ、歯磨き粉、石鹸）も活用されているとうれしい報告が上がっています。

2 2024年ラオス観光年がスタート

2024年1月、ラオスはASEAN観光フォーラムのホスト国になりました。ASEAN諸国に加え、中国、日本、韓国をはじめ各国の代表団が出席しました。2024年はラオスも観光産業により一層力を入れています。私たちの事務所があるルアンパバーンはラオス屈指の観光地で、今後の街中の様子にも大きな変化がありそうです。

3 対象地の教育事情

ラオス通貨安とインフレが継続している社会状況により、地方の教育事情にも変化が見られます。事業対象地のボンサイ郡では、中退率が小学校、中学校共に1%未満であったのが、現在、小学校では2.6%、中学校では11.9%に上がっています。教育局によると特に小学4年生以降、仕事を求めて国境沿いの開発特区に移る人が増えたようです。



ラオス事務所
プロジェクトアシスタントコーディネーター
ブンホン・センパスット

PROFILE

ルアンパバーン国立博物館で情報文化教育局のボランティアスタッフとして勤務した後、2017年にシャンティ入職。生まれ故郷は田舎で教員が少なく、複数学年で授業を行うなど恵まれない教育環境で育った。地方やへき地の小学校に教育支援を行うシャンティに共感し、恵まれない地方の教育の発展に貢献するため活動を続ける。

なり、それが活動する上での困難の一つです。そこで、この事業は県および郡教育スポーツ局の協力のもと、学校や村とも一緒に活動を進めています。衛生研修では、設置した衛生設備の維持管理や学校での衛生環境管理について、村ごとに地域住民と行動計画を立てました。事業完了後も、学校と地域コミュニティが一緒に子どもの学習を支える体制を構築できることを目指しています。人々が教育の重要性を理解し、どのような状況であってもNGOからの支援を歓迎するようになることを願っています。

From Laos

ラオス事務所

ラオス事務所は、山岳地帯が85%を占める北部で活動を行っています。民族、宗教、文化、言語など多様な生活様式に応じて、校舎建設、読書推進、衛生啓発など幅広く活動しています。



新型コロナウイルスで高まった
衛生環境への関心

2023年から2024年上半年期にかけて、外務省の日本NGO連携無償資金協力により、学校衛生改善事業を実施しています。パンデミック以降、衛生環境に対する関心も高まる中で、ルアンパバーン県内でも人口の多いルアンパバーン郡と、衛生環境が比較的整備されていないボンサイ郡が対象となりました。事業を通して、計25校の対象校にトイレ、手洗い場、貯水タンクを設置しました。また、教員、住民、児童を対象に衛生研修を行い、衛生知識の普及に努めました。事業終了後の調査によると、事業実施前後で衛生不備による下痢の発症率が11%減少しました。教員や児童からは、手洗いや環境の清潔さが重要であるという意識が高まったとの声が寄せられています。

多様性にあふれた村々で、
地域住民と手を携える

事業を実施している村々は多様性にあふれています。一つの民族で構成される村もあれば、複数の民族や文化が共存している村もあります。民族、文化、信仰、生活様式によって教育や活動に対する価値観が違つたため、地域住民に参加してもらう有効な方法も異

Hot Topics

1 地域参加型の図書館・リソースセンター建設

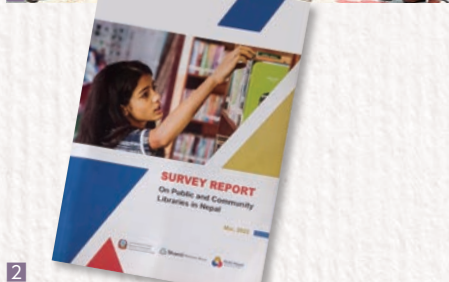
シャンティとREAD Nepalはこれまでに4館の図書館を建設し、現在新たに3館の建設を進めています。建設ではコミュニティや自治体に建設資金の一部を負担してもらうことで当事者意識を高め、事業終了後もきちんと運営・管理されるよう工夫しています。

2 ネパール初の「公共・コミュニティ図書館調査報告書」

シャンティとREAD Nepal、教育省の三者で、公共・コミュニティ図書館調査を実施しました。ネパールではこれまで図書館の数や運営状況を示す正確なデータがなかったため、同調査報告の発行は画期的なことでした。アドボカシーにも役立っており、中央政府や自治体による図書館への予算措置などにもつながっています。

3 お年寄り子どもたちで作る民話絵本

ネパールでは各地に口承で伝わる民話が失われつつあります。これに対しREAD Nepalとシャンティは、地域のお年寄りが昔話を語り、子どもたちが昔話に合わせて絵を描き、それを絵本として出版する活動を行っています。子どもたちは自分の地域の物語を読むのが大好きです。この活動はお年寄り子どもたちの関係を深めることにも役立っています。



ネパール事務所
パートナー団体・READ Nepal副所長
チン・カジ・シュレスタ

PROFILE

1998年にボランティアとしてRead Information and Resource Centre (READ Nepal) に参加。2000年より職員としてコミュニティ図書館の普及に携わる。地域の人々のエンパワメントにつながる仕事にやりがいを感じている。2023年より現職。

民族や宗教の人々など、すべての人が安心して来られる場所です。私は図書館の普及に関わって25年以上になりますが、あらゆる人が安心して集える図書館には、人々を変え、地域を変える力があると確信しています。図書館をネパールに広げていくため、ご支援くださる日本の皆さまに心より感謝申し上げます。

「安全な場所」

子ども、障害のある人々、異なるコミュニティ図書館は、女性
READ Nepalはコミュニティ図書館の普及に取り組みネパールのNGOです。シャンティとは2020年よりパートナーシップを組み、図書館建設や絵本出版、読書推進活動、全国図書館調査などに取り組んできました。シャンティと2023年に開始した新事業では、ネパール東部のコシ州で3館の図書館・リソースセンターの設立を進めています。この事業の目玉は図書館・リソースセンターで職業・技術スキル研修を提供する新しい取り組みです。若者がスキルを身に付けることは非常に重要であり、私もわくわくしています。

From Nepal

ネパール事務所

ネパール事務所ではコミュニティ図書館を通じた教育文化支援活動を行っています。今回はシャンティと共に図書館事業を実施するパートナー団体・READ Nepalのスタッフからお届けします。

図書館・リソースセンター
でのスキル開発

Hot Topics

1 新校舎の扉

教育分野でのインフラ整備の必要性は非常に高く、特に遠隔地の学校においては顕著です。政府や地域社会からの支援が不十分のため、結果、子どもたちは不適切な環境で勉強せざるを得ません。シャンティが支援した対象校ではこうした状況が改善され、図書館を併設した新校舎を得ることができました。

2 図書館で子どもたちも教員も変わった！

図書館建設は、施設の改善にとどまらず人々の様子も大きく変えました。これまで、子どもたちは質の高い本を読む機会がなく、教員も読み聞かせの重要性を理解していませんでした。しかし教員が図書館研修で学んだことを実践する中で、子どもたちは食い入るように読み聞かせを聞き、楽しそうに絵本を読むようになりました。その姿を目にした教員も、図書館の意義を徐々に理解することになりました。

3 届いた喜びの声

私たちの活動に対して教員や子どもたちからポジティブな感想をもらいました。ある教員は「学ぶ空間は私と子どもたちにとって大切な場所で、子どもたちが授業に集中できるようになりました」。子どもからも「新しくできた図書館で本を読むのが好きです。とても楽しいです。たくさん本を届けてくださった方に感謝しています」と喜びの声がありました。



バアン事務所
シニア・コーディネーター
ソー・ヤンナイ・ジョーウ

PROFILE

家族経営農業、民間企業で勤務後、2016年にシャンティ入職。ヤンゴン事務所で6年間働いた後、2022年からバアン事務所へ。本と読書が大好きで、教育の重要性を信じて活動に取り組む。モットーは「互いを愛すること」。



『いろ』金の星社、『はらべこあおむし』偕成社、『きんぎょがにげた』福音館書店

From Myanmar

ミャンマー

全国的な治安の悪化と止まない物価上昇により、ミャンマーの人々は非常に厳しい状況に置かれています。ミャンマー事務所は、紛争の終結を願いつつ、適切な学びの場を提供できるよう支援を継続しています。

初等教育のカリキュラム
変更に対応する校舎建設

2022年、ミャンマーでは初等教育レベルのカリキュラムが変更され、5年生が初等教育に含まれることになりました。必要な教室の数は増えたものの、財政状況により、新校舎の建設やスペース拡充は進んでいません。そこで、私たちは学校側と協働し、学習環境の改善に向けた校舎建設の支援を行うことになりました。また教員不足による学習の質の低下が懸念されており、図書館を備えた校舎を建設しました。

不安定な政治・
経済情勢から子どもたちの
生活を守る

ミャンマーの人々は、治安悪化や物価上昇により日々の食料購入も難しいほど厳しい状況に置かれています。親の中には、経済、治安の問題から、子どもを僧院学校に通わせることにした人もいます。

しかし運営費の多くを寄付に頼っている僧院学校は、政変以降寄付の急減で財政的な問題に直面しています。学校に寄宿する子どもたちの生活も脅かされています。そこで緊急支援として、僧院学校へ基本的な食料と衛生キットを配布しました。

登壇者プロフィール



室蘭工業大学大学院 教授
清末愛砂さん

山口県周南市出身。大阪大学大学院助手、同助教、島根大学講師、室蘭工業大学大学院准教授を経て、2021年6月より現職。専門は憲法学、ジェンダー法学、家族法、アフガニスタンのジェンダーに基づく暴力など。「RAWA（アフガニスタン女性革命協会）と連帯する会」共同代表。



共同通信社カブール支局 通信員
シルクロード・パキスタン・ハンディクラフト代表
安井浩美さん

1993年、フリーのフォトグラファーとしてアフガニスタンを取材し、2001年の米国同時多発テロをきっかけにアフガニスタンに移住。現在は共同通信社カブール支局で通信員として働くかわら、アフガン帰還民の子どものための教育に携わり、女性のためのクラフト工房も設立。2021年のタリバンによる制圧の際、自衛隊機で退避した唯一の日本人。



シャンティ国際ボランティア会 事務局長
兼 アフガニスタン事務所 所長
山本英里

2001年にインターンとしてタイ事務所（当時）に参加。2002年ユニセフに出向し、アフガニスタンで7年間教育復興事業に従事。2003年よりアフガニスタン、パキスタン、ミャンマー（ビルマ）難民キャンプ、カンボジア、ネパールで活動。



朝日新聞「with Planet」シニアエディター
藤谷 健さん

1987年に朝日新聞社入社。国内支局を経験した後、国際報道部に所属し、イタリヤ・ローマ兼ベオグラード支局、インドネシア・ジャカルタ支局、バンコク・アジア総局では総局長を務める。現在は途上国の開発課題に特化したサイト「with Planet」のシニアエディター。

講演会

アフガニスタン 『奪われる女性の権利と子どもの未来 ～NGOの苦悩と模索の20年～』

2023年12月10日、シャンティは設立42年を迎えました。また、2023年はシャンティがアフガニスタン事務所を拠点に、活動を開始してから20年を迎えた年でもあります。

アフガニスタン事務所が節目を迎えた一方、2021年8月の政変以降、女性が置かれる立場は厳しさを増しています。現地の関係者と共に活動を振り返りながら、女性たちが置かれている現状を考えるイベントを開催しました。

【第1部】講演会

アフガニスタンでの20年

～これまでの変化とNGOの役割～

山本 2001年の米国同時多発テロ後の米英軍によるアフガニスタン攻撃からほどなくして、緊急人道支援を開始すべきではないかと調査を開始しました。イスラム圏での活動経験は乏しくさまざまな議論がありましたが、シャンティの理念に基づいて事業を始めました。さらに2003年にはジャララバードに事務所を開設し、現在に至るまで子どもたちが学びの場に戻るための学校建設や、教育の質改善を目指す図書館活動や絵本出版に取り組んでいます。公共施設がない地域でも、学校ができて

ると、その隣に市場や診療所ができ、学校を中心にコミュニティが発展していききました。また、少しずつ図書館活動への理解が深まり、現地の教員などから国に要望し、図書館活動がアフガニスタンの政策に盛り込まれる成果もありました。

その一方で、2021年8月の政変後、情勢は悪化しています。小学校はすぐに再開されましたが、中学校以上の女子生徒の教育は2年間近く止められました。41%の女性教員が国内外へ避難したと言われています。そんな中、シャンティの子ども図書館は、政変後も3万人以上の子どもたちが利用しています。8割が女の子で、多くが学校に通っていません。

フアティマ 小さいころにシャンティの子ども図書館に通っており、図書館で学んだことを子どもたちに届けたいと思います。現在は教員として働いています。私たちはアフガニスタンの復興を切に望んでいます。女性や子どもたちの就労や教育が規制されず、人として生きていく上で当たり前の生活ができるようになり、すべての女性が夢を叶えられる社会を望んでいます。私の学生たち、特に女子学生には決して諦めずに学び続け、この国を

とは小さいことだと思いかもしれませんが、アフガニスタンにとっては非常に大きな支援です。アフガニスタンの人々のことを忘れないでください。

【第2部】パネルディスカッション

政治変化の中で女性と女子に何が起きているのか

藤谷 タリバン政権は女性やNGOへの締め付けを強め、市民生活への取り締まりが未だに続いています。現地に暮らす人々の暮らしはどうですか。

安井 中学校以上の女子教育、医療関係以外の就労は禁止され、多くのNGOが閉鎖しています。生活は大きく変わりました。たとえば市内の公園は、外国人女性は立ち入りが認められていますが、アフガニスタン人女性は認められていません。女性の店員が雇えず商売がままならない店もあります。美容院や公共浴場、ジムも閉鎖し、女性たちは自宅を出られません。女性への規則は50以上あると言われています。

藤谷 女性の就労や女性教育は厳しい状況ですが、清末先生が現地で見聞きされたこと、タリバン復権後の女性たちの様子を社会構造研究の立場からご説明いただけますか。

復興しているところと日々励ましています。

ワヒド 私はアフガニスタン事務所が開設した当初から、シャンティの活動に関わっています。2001年に旧タリバン政権が崩壊する前に、家族は第三国へ定住しましたが、私はアフガニスタンの復興に関わりたいと思います。残ることを決めました。



清末 私はアフガニスタンのジェンダーに基づく暴力の研究を約10年間続けていますが、タリバンだけに着目しても、ジェンダーに基づく差別や暴力の構造は解明できません。歴史的な流れや家長的社会的規範が根付いており、その時の為政者が誰であっても、ジェンダー観はこの規範に影響を受けます。

また、女子教育の制限は、多面的な負の効果があることも構造的に見る必要があります。

女子教育を再開せず家に縛り付けると、まず生きるための知識を習得できず、将来の希望を失います。さらに家族以外の人と人間関係を構築できず、結果的に家族内性別役割分担に基づいて女子の負担が増えます。貧困と関係し、早婚や児童婚の問題もあります。

藤谷 タリバンがやっていることは許されませんが、国際社会がどう向き合うかが欠落しており、これは私たちの問題です。常に関心を寄せ、小さくてもできることから、ということを改めて学びました。

ご視聴はこちらから



イベントの様子はYouTubeでご覧いただけます。

子どもたちの年齢や文化的背景に応じて必要な絵本は異なり、児童書の書店員、図書館員、出版社から、おすそめを教えてください。それぞれの絵本に込められた想いを紹介します。



絵本に込められた想い 絵本を届ける運動

このお話は長野ヒデ子さんと、まだ4、5歳のお嬢様が交わした会話をもとに作られました。「おつきさまはひとつしかない」ではなく「みーんなひとつずつあって、よかつたね」といつたあこちゃんの言葉を、長野先生はずっと大切に覚えていらつしやつたのでしよう。

世界中のひとびとの頭上にそれぞれのおつきさまがかがやいている、そんな情景が浮かんでくる、じんわりとやさしさが沁みる絵本です。

みんなにひとつずつあって、よかつたね。

小さいあこちゃんは、おかあさんと手をつないでかえります。

「ねえおかあさん、アフリカにもおつきさまある?」「あるわよ」「イギリスにもある?」「あるよ」——「おつきさまがみーんなにひとつずつあって、よかつたね」あこちゃんは安心して、お家にかえります。



出版社紹介：
中山佳織さん
株式会社童心社編集部

1957年、紙芝居の出版社として創立。月毎に新刊が届く「定期刊行紙芝居」は創業当時から現在も出版を続けている。日本一の出版部数を誇る『いないいないばあ』や「14ひきのシリーズ」「ももんちゃんあそぼうシリーズ」などロングセラー絵本も多い。



『おつきさまひとつずつ』

作：長野ヒデ子
出版社：童心社



言語・テーマ

おつきさまを眺めながら家に帰るまでの親子のやりとりを通して、他者を思いやる気持ちが伝わる、心温まる絵本です。2024年度はカンボジアとミャンマーに届けます。写真はミャンマー・ビルマ語の翻訳絵本。

参加のお申し込みはこちらから



スタッフのおすそめ商品

シビライ村シリーズ

モン族の伝統的なモチーフとその家庭で代々受け継がれてきた柄に、刺し手の色彩感覚が加わったシビライ村の刺繍。すべて一点モノの貴重なモン族の刺繍です。また、ミシンを持っていない家庭も多く、縫製まで手縫いで行っている商品も少なくありません。刺繍だけではなく、つくり手さんのぬくもりを感じる内側の縫い目までお楽しみください。



新商品やお買い得情報も更新中。クラフトエイド・オンラインストアはこちらから

クラフトエイドはアジア各国で民族独自の伝統や技術を生かした商品づくりに取り組んできました。このページでは民族の手仕事とスタッフおすそめの商品を紹介します。

つくり手さんのぬくもり

CRAFT AID

〔つくり手さんの紹介〕 ラオス生産者団体 シビライ村

シビライ村は、ラオス内戦時にタイの難民キャンプへ避難していたモン族の人たちが祖国に帰還してできた村です。ラオスの首都ビエンチャンから車で2時間ほど移動したビエンチャン県ヒンフープ郡にあり、道路脇の斜面に木造や石造りの家が点々と並んでいます。

村での生活は農作業が中心ですが、土地も痩せていて農地も少ないため、村での生活をあきらめて、都会へ出稼ぎに行く家族も増えています。村での厳しい暮らしを支えているのが、農作業や家事の合間に女性たちがつくるクロスステッチで表現された独創的でカラフルなモン族の伝統的な刺繍を用いた商品です。商品づくりで得た貴重な現金収入は、子どもたちが学校に通うために必要な教材、文具、制服代や、食費、病院代、お祝いごとなどに使われています。

シャンティからのお知らせ

組織改編のお知らせ

2024年1月1日より、地球市民事業課が国内事業課と海外緊急人道支援課に分かれました。

人事のお知らせ

所属課の名称は2024年1月1日からの組織体制に基づいて記載しています。

●入職

守屋 流詩亜	事業サポート課 海外事業担当	2023年11月1日付
吉村 莉恵	海外緊急人道支援課 海外事業担当	2023年11月27日付
杉戸 卓磨	事業サポート課 海外事業担当	2024年3月11日付

●退職

芦田 雄太	海外緊急人道支援課 海外緊急人道支援担当 チーフ	2023年11月30日付
柳澤 ちさと	海外緊急人道支援課 課長補佐/ポータル事務所代表	2024年3月15日付
松本 侑子	事業サポート課 海外事業担当(ミャンマー)	2024年4月30日付
Sahil Shapoor	アフガニスタン事務所事業アシスタント(経理担当)	2024年5月23日付

●異動

市川 斉	国内事業課 課長補佐 → 国内事業課 シニアスタッフ	2023年11月1日付
守屋 流詩亜	事業サポート課 海外事業担当 → アフガニスタン事務所 コーディネーター兼事業担当	2024年4月1日付

●昇格

石塚 咲	事業サポート課 チーフ → 国内事業課 課長補佐	2024年1月1日付
テラワリ ケイ	海外緊急人道支援課 課長補佐 → 海外緊急人道支援課 課長	2024年2月1日付

●復職

真屋 友希	事業サポート課 海外事業担当 チーフ	4月15日付
木下 愛子	広報・リレーションズ課 絵本を届ける運動担当	4月22日付
山室 仁子	事業サポート課 支援者対応担当 チーフ	5月1日付

2023年度の翻訳絵本が活動地へ向け旅立ちました

2023年に「絵本を届ける運動」へのご支援で収集した翻訳絵本が2月2日(金)に活動地へ向けて、シャンティの東京事務所を旅立ちました。翻訳絵本づくりに参加された企業や団体の方、曹洞宗総合研修センターの方がボランティアでお手伝いに来てくださり、職員も含め38名で、2023年の翻訳絵本1万9,483冊のうち船便で届ける303箱を無事運び出すことができました。2024年は1万8,649冊を目標にお申し込みを受け付けています。1999年に始まった「絵本を届ける運動」が2024年に25周年を迎えます。これまでの活動のあゆみや支える人たちの声などをまとめた特設サイトを公開中ですので、ぜひご覧ください。



特設サイトはこちら



シャンティ 2024年6月号(通巻319号) | 2024年6月1日発行

発行人: 若林恭英
発行所: 公益社団法人シャンティ国際ボランティア会
〒160-0015東京都新宿区大京町31 慈母会館2・3階
TEL 03-5360-1233 FAX 03-5360-1220
WEB: www.sva.or.jp E-Mail: info@sva.or.jp
編集人: 鈴木晶子
編集・制作: 株式会社文化工房
イラスト: きよはらえみこ
印刷: 株式会社サンエー印刷

当会へのご寄付は、所得税、住民税、および法人税、相続税の優遇措置が受けられます。
©Shanti Volunteer Association.
「シャンティ」は、FSC®森林認証紙にノンVOCインキ(石油系溶剤0%)で印刷しています。



川畑 嘉文(フォトジャーナリスト)

Yoshifumi KAWABATA

ニューヨークの雑誌社勤務時代に9.11を経験し、記者職を捨てて写真の道に進むことを決意。2002年、会社を退職しタリバン政権崩壊後のアフガニスタンを訪れ取材を行った。2005年フリーランスのフォトジャーナリストとなり、世界中の難民キャンプや貧困地域、自然災害の被災地で取材を行い、雑誌や新聞などに写真と原稿を寄稿している。



この瞬間、カメラを構える筆者も思わず口元が緩みます

「せつら笑ふ」

もらい泣きというのがあるように、もらい笑いというのがあります。それは現地スタッフによる読み聞かせの際に起こります。

熟練の技を持つスタッフは絶対に外さない絵本を披露します。最初は軽い笑いから、次第に笑顔が広がり、しまいは爆笑の渦が生まれます。子どもだけでなく大人たちの口元もにっこり。そして、それを撮っている私も、現地の言葉はわからないのに爆笑しています。弾けるような子どもたちの笑顔はその場にいるすべての人を幸せにするのです。

絵本の中には喜怒哀楽が詰まっています。その感情に触れることは他者の心に触れること。その瞬間こそ情操教育の真最中なのだと思います。私にとってとはというと、最高の癒やしの瞬間にほかなりません。



目が宝石のように輝く子どもに出会うことができます



大樹の下で行われたラオスの移動図書館活動の様子。最高に美しい図書館です



真剣な眼差しで読み聞かせを楽しむ少女

